



げんぱく ひがい 広島は原爆で、どれくらいの被害を受けたの



市の中心部の建物のほとんどがこわれ、約20万人が亡くなったんだよ。

1945年8月6日、広島市に投下された原爆は、上空約580メートルで爆発しました。それとともに、大きい火の玉ができて、強い熱線と放射線を放射し、まわりの空気が大きくふくれて、はげしい風（爆風）が起きました。この原爆が直接の原因で亡くなった人の数は、約20万人で、そのうち約14万人が、その年の終わりまでに亡くなったと推定されています。

熱線による被害

爆発から3秒後までに放射された熱線によって、爆心地（爆発点の真下の地点）から約3.5キロメートル以内にいた人は、やけどを負いました。特に約1.2キロメートル以内では、大やけどによって、ほとんどの人が亡くなりました。

爆風による被害

爆心地から500メートルの所で秒速280メートル、というはげしい爆風によって、市の中心部の建物のほとんどが、完全にこわれました。1.8キロメートルはなれた所の建物も、全部がひどくこわれました。こわれた建物の下じきになり、その後に発生した火災から逃げられずに、焼死した人もたくさんいます。

放射線による被害

人体をつらぬいて、細胞をこわす放射線によって、爆心地から100メートル以内の人は、けが・やけどをしていなくても、ほとんどが数時間で亡くなりました。300メートル以内の人も、ほとんどが30日以内に亡くなりました。投下から100日後までに、市の中心部に入った人も、地上に残った放射線によって、障害に苦しむことになりました。